

事業名 重要港湾那覇港泊^{とまり}ふ頭地区
港湾環境整備事業

都市地域内で、子供・高齢者・身障者にやさしい開かれたウォーターフロントを創出することにより、港や海に親しめる空間を確保。さらに、海に面しオープンな空間を創出したことにより、数多くのイベントを実施しており、周辺地域の活性化に寄与



親水護岸及び身障者用のスロープ

受賞機関 那覇市建設港湾部港湾建設課
事業実施期間 平成3年10月8日～平成12年4月28日
事業費 872百万円

事業等の特徴

沖縄県の物流・人流の拠点である泊ふ頭の再開発事業は昭和63年に着手され、港湾機能に加えて、人が集い楽しむコミュニティーゾーンとしてのコンセプトを設定し、平成7年度には周辺の離島を結ぶ旅客ターミナルビル及び立体駐車場が完成、平成12年度に泊緑地が完成した。

当該緑地は、海に面した親水広場や芝広場及び人工デッキにより構成されており、すべての施設をスロープでつなぐことによりバリアフリーを確保している。

平成7年4月の「とまりん」オープン以来、毎年各種のイベントが開催されており年間概ね6～8万人の集客がある。

事業の概要と利用者等の評価

泊ふ頭は、那覇港のなかで最も市街地に隣接し、古くから沖縄県の物流・人流の拠点として栄えてきたが、船客ターミナル等港湾施設の老朽化やふ頭内に点在する一般事務所・店舗・集配センター等により繁雑となっていたため、昭和63年に港湾の再開発に着手した。

再開発事業は、物流・生産の拠点であった港湾の機能に加えて、新たに人が集い、楽しむコミュニティーゾーンとしてコンセプトを設定し、平成7年度に周辺離島港の旅客ターミナルビル（通称：とまりん）及び立体駐車場、平成12年度に当該泊緑地が整備完

了している。

旅客ターミナルビルは、商業施設、各種情報施設、ホテル等からなり、「都市」と「港」が交錯した空間となっている。旅客ターミナルビルに接する当該緑地は、再開発記念公園として海に面した親水広場や芝広場及び人工地盤であるデッキにより構成されており、すべての施設をスロープでつなぐことにより、高齢者・身障者に優しいつくりとなっている。

当該緑地及びターミナルビル館内外施設では、泊ふ頭開発株式会社を中心にマスコミ、沖縄総合事務局、那覇市等により、平成7年4月の「とまりん」オープン以来、継続して各種イベントが開催されており、当該緑地は、県内随一のウォーターフロントの持つ魅力・ファッション性豊かなエリアイメージを創出することにより、海との触れ合い、海洋の持つ魅力を多くの市民・県民・観光客にPRする格好の緑地として周辺地域の活性化に寄与している。

審査委員会委員の意見等

- ・再開発事業の好例である。
- ・旅客ターミナルの再開発を契機に、商業・情報など様々な生活機能を付加し、コンパクトな街づくりを目指した点、住民だけではなく来街者の視線を意識した点がよい。
- ・那覇港のなかで最も市街地に隣接しているものの、施設の老朽化や様々な機能が雑然と配置されていたことから使いづらくなっていた港湾エリアを再開発し、県内随一のファッションブルなウォーターフロントを創出したことは評価に値する。また、各種のイベントを開催し、毎年6万人から8万人の市民・観光客に利用され周辺地域の活性化に役立っていることも評価される。